

小学校適正配置協議会だより 第3号

発行 令和元年9月26日
倉吉市教育委員会学校教育課学校統合準備室

本年度第3回小学校適正配置協議会が開催されました。先回開催した各グループの議事録をもとにグループに分かれて、更に議論を深めていただきました。

- ◇ 日 時 令和元年8月28日(水)
午後7時～午後8時30分
- ◇ 場 所 上灘公民館
- ◇ 参加者 委員40名、事務局6名
- ◇ 内 容

1 開 会

○教育長あいさつ

- ・先回、話し合った内容については協議会だよりとして、各自治公民館にお世話になり班回覧で市民の皆さんへ周知していただくようお願いしている。
- ・先回の協議会での議事録をもとに、各グループで更に議論を深めていただきたい。

2 各グループ協議の主な意見

【1グループ】

- 基本は地域がこれから先どうなっていくかということが、一番のネックになっている。もちろん子どもたちが、これからもこれまで以上にいい教育環境というものをどのようにすれば皆の手でつくれるのかとか、教育委員会としてはこのような案を持っているとか、出していただくとそこで議論になると思う。
- 反対反対でもいけないので、小規模のデモ

リットを補うような対策をしないといけないと思う。意見が2つに分かれて平行線をたどる会だったら、対極的な立場に立って中学校も含めて将来倉吉市の教育がどうあるべきかという観点で議論しないといけない。

- 新たに教育委員会は、大きい学校も小さい学校も認め、多様性を認めるという方針転換をしていただかないと、この議論は始まらない。
- この問題は全庁的にオール市役所で取り組まれないと、前に行きませんよということを、7年前から言っている。教育委員会のいう適正配置の問題ではなく、地域の再編になってくる。地域の再編について、本気で対案を出していくことをしないと、この話はまとまらない。

【2グループ】

- 住民が納得することが大事である。住民が納得しないのに上からこれこれでやりなさいという方法で進めるから反発が起きるのであって、今のようにこの会を開いて意見を言えば、だんだん皆さんの意見を聞いていくうちに、なるほど我々の考えも多少直さないといけないかな、柔軟に考えないといけないかなということになってくると思う。
- 特に小学校の場合、人数が少なく目の行き届いた教育をしていただいて、しっかり基礎を付けて中学校に上がっていくというのが普通の考え方で、外国を見ても当然そういうことで行われているので同じように進めてもらいたい。
- 小学校適正配置の問題は教育委員会だけの問題ではなく、市の大問題だと思う。そういう中に行政の方が誰も参加されて意見を聞かれない。多分、教育委員会の方は説明されると思うが、そのような真摯な態度が行政側に必要ではないか。そうすることで

住民は十分に意見を聞いてもらえたということが、物事を進める基本になるのではないかなと思う。

- 子どものことを考えれば、ある程度まとめてやるのが必須だろうと思うが、悲しいかな小学校というのは昔から地域の核になっている。小学校というみんなが拠り所になっているものがなくなった時に、では自分たちはこれからどう地域を支えていけばいいかということが多分心配なのだと思う。ずっと何十年も拠り所にしてきた小学校がなくなったら地域の火は消えるというのは、たぶん皆さんの心情だろうと思う。

【3グループ】

- あまりにも大規模な編成にしてしまうと、今は地域と繋がっている学習が多いので、その部分が崩れてしまっただけではないと思う。やはりある程度の地域との繋がりは大事にしてやりたいと思う。
- 学校の統廃合は地区の統廃合だと必ず言われるが、それは二の次だと思う。子どもたちの学べる場、或いは遊べる場、いろいろなチャレンジをしてみる場というのは、みんなに共通に適正であってほしい。だから、どのような形が適正なのかを考える場で、これを単に地域と学校が結びついているからとか、小学校が避難場所になっているから残してもらえないと困るというのは、二の次、三の次だと思う。子どもたちがいかに楽しく学べるのか、或いはみんなと仲良くなれるのか、友達が出来るのか、そういう場を平等とまでいかになくても同じようにもたせてやってほしい。

- 統合をもし決めたとしても、そこから2年3年かかるわけで、その間にもどんどん児童は減ってきている。だからその対策は早めに進めていかないと、太刀打ちできなくなる。
- 理想の話をどんどん追求するのはいいが、そうは言っても市の財政というのは避けて通れない部分があって、そこを教育委員会や行政はどう考えているのか。その辺の率直な意見も出してもらった中で折衷案を出していかないと、理想の話ばかりで一向に解決していかない気がする。

【4グループ】

- 魅力ある地域づくりをして人がそこに留まれば、当然その地域を活性化させるために自分たちの子どもたちが留まるような地域づくりを皆さんが本当にしようとされるのか。
- 賛成でも反対でも自分たちのために、しっかり大人が議論して考えてくれたというふうに子どもたちには思ってもらいたい。最終的にはそういう子どもたちの環境にしたい。
- メリット・デメリットはあるので、自分の考えはどっちを取るかしかならないと思う。小規模の方を取れば小規模なりに地域振興の辺りを動かないといけないし、大規模の方だと一人ひとりを大事にするということを言い続けたり、地域で一人ひとり大事にする取り組みをするなど、どちらにせよ動かないといけない。
- 新興住宅地もどんどん出来ているので、道筋だけで絶対だという方針を緩めるとこの再編のどちらかに傾かないかと思う。
- 校区自体を考え直したら多少解消されるような気がする。

【5グループ】

- 統廃合は有り得ない話で、子どもたちを詰め込んで、子どもたちが発信していることを掴めない人数にしてしまうような統廃合は反対だ。なんとか見直しして一からと言われているので今現状ある学校は残すという形で、地区編成で対応してほしい。過疎化という現実が加速してしまうので、自分の子どもが帰ってくる時に地域に小学校や保育園があれば戻ってくる可能性もあるので、地域で学校を守っていかなくてはいけない。
- どことどこというA案、B案はご破算にした方がいいと思う。上小鴨小は上小鴨小だけで残っていく方法がないのかと。小鴨小と一緒にという前提で物事を考えないとか、または関金の方に行くのもありじゃないかと。賛成・反対ではなく全部を見た時や全体を考えた時に適正規模はありで、あえて致し方ないのではないかと思う。
- 2クラスあれば先生も2人いるわけで、2人いれば話し合いをしながらとか、若手の先生とベテランの先生でペアを組んで、ベテランの先生の指導を受けながら成長していく。自分のクラスだけでなくもう一方のクラスもお互い見ながら、というようないい点もある。しかし単学級のところはものすごく大変で、職員室で周りの職員のアドバイスを受けながら、努力の甲斐があって個々のレベルでされている。そのエネルギーが2クラスくらいになって、先生方が複数の中でやっていけば、もっと上のレベルで出来るのではないかと思う。
- 現在はアクティブラーニングという動的教育を、自分で考えるという教育方針に変わってきている。そうすると逆に少数の方が、そのようなことがよく教えられるのではないかと思う。

【6グループ】

- 100%の方が納得してという形には現実的には無理で、反対意見があっても当然だと思う。しこりが残るような強引な形は避けるべきだし、その後の学校運営にも支障が出てくるようなことになりかねないような状況での再編は、絶対にあってはならない。
- 学校の合併をしたところで限界がくることはわかっている。校区を取っ払ってどこでも行けるように考えたらどうかと、それを投げってみたらどうかと思う。
- 例えばこの地域はどちらに行かれても構いませんよ、みたいなことをもう少し広げてみて、その結果どうなるかを見たい。ただその時には何年か後には、もう一度見直しをしますというある程度の期限をもっていないと、やってみていけなかったからどうしようでは、保護者の方も困る。
- アピール合戦をすればいいと思う。大きいところは大きいなりがいいところが、小さいところも小さいところのいいところがある。小さいところに行きたい人は行けばいい。大きいところで揉まれたいという親は、大きい学校へ行けばいい。
- 分校も考えられるという話があって、何年生までを分校扱いにするのか、例えば人数が50人を切ったら分校にしましょうという提案があってもいいと思う。4年生や5年生がどこの学校に行くのかを決めてあげないといけない。

